

## 昭和の森自然観察会

### 生き物たちの冬支度

相吉達夫(松戸市)

日 時:2024年12月8日(日)10:00~12:00、天候:晴れ

参加者:17名 大人10名(男5名女5名)、参加者:子ども7名、

担当指導員:小川 川北 相吉、管理事務所:1名

参加指導員:8名(井上 梅宮 奥村 佐野 武田 玉川 平田 山下)

朝は寒かったけど風が弱く晴れていたなので、比較的暖かく まずまずのスタートとなりました。今日のテーマである「生き物たちの冬支度」に関する説明、注意事項等の説明の後2班に分かれ出発した。その後、すぐに樹皮の窪みで越冬するヨコヅナサシガメ、同じ樹木にヒモミノガのひも状のミノ、エビグモの仲間、ハイイロチビフサヤスデ、甲虫の幼虫などを立て続けに発見して参加者の方々のテンションが上がってきた。そして、次のスポットの落葉がたまっている場所へ移動する。落葉のある所には誰が冬支度をしているか楽しみだ。落葉の下にはザトウムシ、木の根もとにはダンゴムシ、ハエの仲間、ゴキブリの幼虫、ジグモの巣、樹皮の裏にはヤスデ、ゴミムシの仲間、朽木にはキマワリ、さらにクヌギの落ち葉について虫こぶなどを参加者の方々が根気よく見つけてくれた。プラカップに入れてもらった生き物を種類別に並べみんなで見つめて観察、一同の視線が釘付けになる。そして、キリの蕾の観察。薄茶色の丸い蕾が早くも来年の準備をしていた。また近くにはヒマラヤスギがあり雄花が目立つ。下に落ちていた雄花を拾ってばらすと花粉が飛んだ。ヒマラヤスギの松ボックリの先端シダーローズが地面に落ちたのを子供たちが見つけた。また、落葉したケヤキに半寄生植物で実をレンジャク類が好むヤドリギがあり観察した。

最後にモグラの通り道を竹の棒を使って探した。参加者全員が盛り上がり探した結果、例年と比べて穴がとなりの塚とつながっているのが確認できた数が多かった。そして、クイズ形式でモグラの説明をし、モグラのぬいぐるみでモグラの体型を感じてもらった。その後、カラスウリの中身を観察、種子は何に見える?と聞くと子どもたちが打出の小槌、カマキリの顔、クロワッサン、熊さんの顔などと答え発想が素晴らしく見方がそれぞれ面白い。そして、観察会は無事に終了しました。参加者のひとりひとりに感想を言ってもらい、「モグラが楽しかった」、「シダーローズが面白い」、「葉っぱの下や木の皮を剥がすといっぱい虫がいた」などみんなが笑顔で答えてくれて安心しました。今回改めて思ったのが、観察会は生き物なしでは成立しないという事です。だから生き物を大切にそして感謝したいと思います。



プラカップに何が入っているかな?



モグラの穴はどこまでいくかな



カラスウリの中身を見てみよう。